

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	調布市飛田給 2-21-2YAHIROビル 1・2F
園名	ちいはぐ・飛田給

1. 活動のテーマ

<テーマ>

農業体験

<テーマの設定理由>

園庭がない環境だが、地域の特色を活かし農園での野菜作りを体験する。野菜の生長過程を知り、食物への興味関心を深める。また、自然の恵みへの感謝、農家さんや調理員への感謝の心を育むなど、すばらしい食育となると感じた。

2. 活動スケジュール

- 4月 地域の「chofu みらい farm」という体験型の農地をお借りする。
園から徒歩5分。
- 5月 開始。苗植え、種まきを農家さんの指導の下進めていく。農家さんが在駐するのは土曜日の為、土曜勤務の職員と登園児で畑に行き作業を進める。
平日は年長児を中心に水やりに出かける。各クラス、散歩の行き帰りなどで、生長ぶりを確かめていった。
- 6月 生長の早い夏野菜（トマト、なす、きゅうり）が実をつけはじめ、月末には初の収穫を行った。
- 7～9月 夏の暑い盛りは、気温や時間帯に気をつけ、短時間の収穫にでかけた。トウモロコシや枝豆は職員が根こそぎ収穫し、園内にて皮むきや鞘取りを行った。主に給食食材として活用するが、収穫が多い時期には、子どもたちに触れてもらいスタンプあそびなど活動の材料として使用した。
- 8月 年長児、畑の野菜を使い「味噌汁づくり」を実施。
- 9月～ 夏野菜から、秋冬野菜へ移行してく。再び種、苗植えをし、幼児クラスがお世話をしていく。
- 11月～1月 0～5歳児まで皆で収穫を行う。年長児「味噌汁づくり」実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・「chofu みらい farm」1年間借用契約。
- ・子どもたち用の長靴を購入。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・種まき、苗植え、剪定、水やり、草むしり（幼児クラス）
- ・収穫、皮むき、鞘取り（0～5歳児）
- ・収穫した野菜で味噌汁づくり（5歳児）
- ・スタンプあそび（1～5歳児）

各学年でできることを担任同士声をかけ合って、皆で大事に育て、美味しく命をいただく活動となった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・夏野菜は生長が早く、畑に出かけるたびに大きくなり、花が咲いたり、小さな実がなるたびに愛おしそうに喜んでいた。ツル科の植物は「ぼくとどっちが大きい？」と背丈比べも楽しんだ。葉や茎に鼻を近づけ「トマトのにおいがする！」と驚く姿、「なすは花もむらさきだね」「あかちゃんきゅうりにもトゲトゲあるね」たくさんの発見があった。

・同じタイミングに、調理さんが「野菜クイズ」の食育計画を実施。実際に畑を見て、触れて得た知識を自信たっぷりに答える姿が輝いていた。

・乳児クラスは、収穫したものに触れて楽しんだ。1～2歳児は、トウモロコシの皮むき。皮をむいたらひげが出てきて驚く子どもいれば、きれいになくなるまで集中してとってくれる子もいた。またいくつかの野菜を目の前で切って、中の色、種、匂いを確かめた。絵本で見ていたものが実際の物として五感で楽しめていた。その後、スタンプあそびとして活用し、夏の制作につなげていった。

・秋冬野菜の収穫は全クラスが体験。「うんとこしょ、どっこいしょ」と人参や大根、カブ、ねぎの収穫を楽しんだ。ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、白菜は顔が隠れるほど大きく立派に育った。じゃがいも、里芋掘りは幼児クラスが担当。里芋の大きな株はなかなか固く、交代で協力しながら力いっぱいシャベルに足をかけ、掘り起こした時は「やったー！」と大喜びであった。

- ・収穫の他、野菜が大きく美味しく育つために草むしりが欠かせないが、収穫と同じようにスコップを使って夢中になってお手伝いしてくれた。
- ・収穫したものは主に給食食材として活用。並べられた料理の中に自分たちが育て収穫した野菜を見つけると喜んで食べていた。野菜が苦手な子も「食べてみようかな」という気持ちが芽生え、実際に口に「おいしい」「ピーマン食べれたよ!」と自信や満足感につながった。
- ・家庭でも話題に上がり、保護者の関心も高まった。給食メニューのレシピのリクエストも多く上がった。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・自分の体をつくる「食べ物」の大切さを、自分たちで野菜を育てる経験からいろいろな角度で大人も子どもも学べたと思う。
- ・野菜の生長を観察することでたくさんの発見をし、食への興味関心が高まったこと。大きく美味しく育てるには何が必要かがわかり、自分たちにできるお世話を張り切って担当してくれたこと。長靴に履き替え、収穫、草むしり、収穫した野菜を洗ったり、皮むきや鞘取りの処理まで、経験を重ねる中でどんどん手際よく、積極的に関わる幼児クラスの頼もしさを感じた。クラス毎に活動することが多く、協力や団結力も育ち、喜びもたくさん共有できたと感じる。
- ・収穫したものを調理さんにバトンタッチし、新鮮な食材が収穫期には毎日のように美味しい給食となって提供された。そこに自分たちが携わったことの喜び、食材の美味しさを改めて味わい、命をいただくことを理解しながら、携わってくれた方への感謝の気持ちも育ったと感じる。子どもたちの食べがよく、毎日のように「おいしい!」「おかわりください」の声を聞くと、すばらしい「食育」になったのだと感じる。
- ・また、地域の活用で、人とのつながり、社会とのつながりもできたと感じる。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	調布市飛田給 2-21-2YAHIRO ビル 1・2F
園名	ちいはぐ・飛田給

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動表現

<テーマの設定理由>

保育園に園庭やホールがないが、限られた保育スペースでも安全に、楽しく運動あそびができる時間を保障していきたいと思った。体を動かすことの気持ち良さを体験しながら、全身を使う動き、新しい体の使い方を習得していく機会をつくる。専門の講師を招き、マット運動などで技ができるようになったり、目標に向かって練習し、今までできなかったことにチャレンジするワクワク感や、達成感を体験する。また、体操の集団指導を通し、話を聞く、約束を守るなど社会性を育む機会につながることに期待する。

2. 活動スケジュール

- ・4月～体育指導の業務委託をする。対象は3～5歳児クラス。月2回隔週で行う。ひとクラス30分ずつ。講師との信頼関係を築いていきながら、年齢に合ったカリキュラム、個々の運動発達をみてもらう。
- ・9月 「運動遊びの会」では、保護者にも体操教室の様子を見て頂けるようプログラムに体操を取り入れた。
- ・体操で習ったことを、日々の保育の中で継続して行ったり、雨天時の室内プログラムのヒントにしていった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈準備〉 幼児クラスの部屋の半分を体操スペースにする。交代制。

〈既存の道具〉 マット、フラフープ、三角コーン、ポール

〈購入〉 縄跳び

天気の良い日は「青空体操教室」と題し、園庭代替の公園にて、鉄棒、縄跳びを行うこともあった。

4. 探究活動の実践

〈活動の内容〉

・ 3～5歳児は異年齢で過ごしているが、体操教室は子ども達の発達を見てクラスごとの活動とした。時間も集中出来るよう3歳児クラスは30分弱、4・5歳は様子を見ながら時間を調整した。

・ウォーミングアップは、準備体操の他、担任による「さくらさくらんぼリズム」、体を動かすわらべ歌を取り入れた。講師も楽しいゲームを取り入れながら、安心して参加できるきっかけを作っていた。

・講師と担任で話し合い、子ども達の様子を共有しながら隔週のカリキュラム、活動計画を立てていった。

・講師のプログラムには、担任も必ず1名参加し、説明や内容が難しそうであると感じた子どもには個別で関わり、一緒に楽しむことで、仲間と参加しチャレンジしていきやすい環境を作るようにした。

〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

・運動に苦手意識があったり、新しいことへのハードルが高い子、その日の体調や気分など、1人ひとりの様子を把握する。参加したくないときは、まずは友だちの姿を見る、応援する、ことから始めていった。

・体操教室でやり方やコツを教えてもらうと、その後の自由遊びでも意欲的に練習する姿が見られていた。特に縄跳びが多かった。道具の扱いにも意識が向き、縄の結び方も真剣に取り組み、教え合ったりしながら「できた」という喜びを職員に伝えてきた。

・体操中は子ども同士の関わり、講師との関わりも自然とあり、楽しそうな様子が見られた。「きょうは〇〇やりたい！」とリクエストも上がっていた。並び方を意識したり、順番を守るよう声をかけたり、コミュニケーションを取りながら社会性も育まれていると感じられた。

・保護者にも動画配信やドキュメンテーションなどで活動内容を共有し、活動の様子を伝えていった。また9月の運動遊びの会にもプログラムを入れた事で、普段の様子を更に近く見て頂くことが出来て講師へ対する信頼感・安心感にも繋がっていた。



保育室内、狭い環境ではありますが、マットなど使って子ども達が全身を動かせるように工夫しました。順番を守ったり並んだり社会性も育まれます。



9月に行われた運動遊びの会、普段体操教室で行っていることを保護者の方々にも見て頂きました。ちょっぴりドキドキしながらも、大きな体育館で体操ができる楽しさも感じていました。



戸外での体操教室の様子。気候や公園利用状況を確認しながら、「青空体操教室」を実施。室内では難しい縄跳びや鉄棒も練習しました。大縄跳びにもチャレンジ、跳べた回数の更新を目指して張り切っていました。講師の話をよく聞き戸外でも集中して参加しています。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・体操講師の指導から、普段の保育にも取り入れられることは取り入れ、子どもたちの発達に合った運動を保障できるようになった。雨天時、長時間保育の中での静と動のメリハリとして、上手く運動あそびを取り入れることができた。公園では、鉄棒や縄跳びなどを自ら練習する姿が増え、できるようになる喜びや達成感を子ども達が自然と感じられる環境が用意できたと思う。

・最初参加することを拒んでいた子も、一人ひとりで行う種目では友達のチャレンジする姿をみて「自分も出来そう！」とチャレンジ精神が芽生えた。友達の応援をする、友達に教えてあげる、友達に教えてもらう。学年単位の30分の時間はクラスの団結力を深めていったと感じる。4、5歳児は順番待ちの時間を利用して、友達に教え合う姿もみられた。ペアでの体操、集団でのゲームなど、回を重ねるごとに、自ら参加しやすいものからチャレンジする姿も見られた。選択し、やってみようと一歩前に踏み出せた姿を褒め、次につながるよう応援していった。

・できるまでの過程で、どうしたらできる、どうしたら上手くなる？とそれぞれが模索し、探求心を育む体験となった。運動の楽しさ、自分の好きなこと得意なことが見つけられる喜び、自分の心と体の成長を感じながら、自己肯定感を高められたと感じる。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	調布市飛田給 2-21-2YAHIRO ビル 1・2F
園名	ちいはぐ・飛田給

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

・年長児を筆頭に畑活動をしていく中で、種の色・葉の色・匂いなど、食に関する部分だけではない気づきがあり、さらに広げていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

- ・畑活動は年間を通して行う。春夏野菜 10 種類、秋冬野菜 10 種類、その中で子ども達の反応や野菜の生長を見ながら、畑の野菜を“食べる”だけでなく、“匂い”“色”等に気づき、興味関心を広げられるように、保育者同士連携取りながら計画していった。
- ・畑は土曜保育の出勤時を利用してしながら職員が作業することも多い。職員同士協力し、畑の状況を共有しながら活動の計画を進められるようにした。
- ・畑の野菜だけでなく園前で2歳児クラスが育てているプランター（ゴーヤ）も利用し、野菜の生長を身近に感じ、色水遊びなどに繋がられるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<準備したもの・既存のもの>

畑とプランターの野菜、すり鉢、豆乳、ミョウバン、玉ねぎの皮、染色の絵本・図鑑

<購入物>

木綿のバンダナ、クエン酸

<環境の設定>

- ・体験農園、プロの農家にサポートしてもらいながら畑での土作りから収穫までサポートして頂く。
- ・染め出しに関する図鑑絵本を用意、子ども達が手の取りやすい場所に置いておく。自然と興味・関心が広げられるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・収穫時野菜だけでなく葉っぱから匂いがすることや、皮の色などに気付き声があがったことで、活動を広げていった。園前プランターのゴーヤで色水遊び。その後なすのへたと皮で色を出し染物、その後玉ねぎの皮で染め出し、という流れで実施。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎ゴーヤ色水実験

「葉っぱもゴーヤの匂いがするね!」と子ども達が発見。「青臭い!」「あおくさいってどんな感じ?」とゴーヤの“青臭さ”に気付き、言葉にする児もいた。「ゴーヤ以外のお花とかでもやってみたい!」→色が出そうな畑の茄子でチャレンジする流れとなる。

・実験結果を自分達で紙に書いてまとめるのも子ども達のアイディア。他のクラスの子や、お母さんたちにも見てもらいたい!と、お迎えの際に机にまとめて掲示した。

◎ナスの色水で染め出し

・畑のナスを使い、染め出ししてみることに。園にあった「そめもの」の図鑑絵本を見ながらチャレンジ。最初にバンダナを豆乳に浸ける。「ゴーヤよりはいい匂いだね。」と匂いを比べていた。

・ゴーヤより綺麗な薄紫色に大喜び。「この色で染まったら絶対綺麗になるよね!」と期待感を持って参加していた。クエン酸を足すと色が少し変わり、更に実験のようだった。結果…なすが足りなかったのか染まらず、失敗となってしまったが、また絵本を見返し、「次は玉ねぎでやろう!」「みんなで玉ねぎの皮を集めよう!」と、子ども主体で計画を進めた。

◎玉ねぎの皮で染め出し

・前回の失敗から更に意欲的になっている子ども達。「次は絶対成功させよう!」と、玉ねぎの皮集めの為のポスターを作ることに。幼児3学年に協力を頼み+園の給食で利用した玉ねぎの皮を集める。3袋分集まったところで染め出しを行う。

・「玉ねぎスープの匂いがする!」玉ねぎを朝から煮出した染液の匂いを嗅いでうっとり。

・模様をつくり、出来上がる工程がとても楽しかった様子。輪ゴムや洗濯ばさみを外すたびに歓声があがっていた。

ゴーヤの色水実験

園前で2歳児クラスが育てていたザウルスゴーヤを使用して色水実験。



畑、ナスの色水実験 染め出し



玉ねぎの皮で染め出し



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・玉ねぎでの染め出し、初めての経験に興味関心を示していた。模様をつけるビー玉を並べる事や、染料につけて混ぜるところが楽しかった様子。色付いていく布の変化を見て驚き、嬉しそうであった。なるべく多くの工程を自分たちでやったことで、「自分で作った」という達成感を味わえたと思う。1回目の染物（ナス）が失敗してしまったが、それにより2回目は更に意欲的に参加出来たと思う。染まらなかった“失敗”の経験も子ども達にとってはプラスになっているのだと感じた。

・単発での活動で終わるのではなく、興味関心が広がり深まる機会を作れることにも気づいたので、これまで以上に子どもの様子を職員間で共有し、保育環境の設定を見直したり工夫したりしながら、子どもたち一人ひとりの気づきやチャレンジ心に寄り添っていきたいと思った。来年度以降も畑での食育活動はもちろん、色・匂いに気付けるような声掛け、食べること以外の活動へ広げられるような計画を続けていきたいと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	調布市飛田給 2-21-2YAGHIRO ビル 1・2F
園名	ちいはぐ・飛田給

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界の国

<テーマの設定理由>

3～5歳児異年齢で過ごしている幼児組。7月末3歳児クラスの1名が父の海外赴任に伴い引越しが決まった。引っ越し先(タイ)がどんな国なのか、お別れ会を通して子ども達に伝えたところ、言葉や食べ物など子ども達も興味を持って話を聞いていた。保護者の海外出張の話や、外国籍の児がいることもあり、世界についての興味関心を深められると感じた。

2. 活動スケジュール

転園児に伴い海外(タイ)についてのお話。その後、世界地図や異国の文字を貼りだし、子どもの興味関心を引き出せるようにした。出張していた保護者から中国のお金をお借りし、子ども達と中国について本・iPadなどを使用し、説明。興味が広がっていたことから、地球儀を購入。子ども達も興味を持って観察していた。その後、職員から声が上がり、韓国についてお話会も行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<準備した物・購入物>

地球儀、世界地図、言葉ポスター、韓国についての写真など

<環境設定>

- ・地球儀・世界地図をいつでも見られるように保育室に設置した。
- ・海外経験のある職員を講師に招きおはなし会を開催。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・韓国について、チマチョゴリ姿の保育者から韓国についてのお話会。言葉、食事など、写真やパネルを使いながらお話ししてもらった。わかりやすいテーマで、子ども達もよく理解出来ていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・地図を見ながら「この国はこういうところ?」「ここ行ったことある!」と会話のやりとりが出ていた。知っている言葉をお話しようとしていたり(英語)知っている国旗にも興味を示していた。

・韓国語クイズでは日本語と似ているところを探し、真似たり考えたりする姿もあった。
・出張で家族が海外に行くときには「お父さん、〇〇に行ったよ。」「お土産に〇〇を買ってきてくれた!」など自然と会話の中で海外の話題が出るようになった。

・転園した友達のことを時々思いだし「タイはどうかあ。」と異国をのことを考えている。

・ひらがなを書ける年長児は、「英語も書いてみたい!」と表を出して欲しいとリクエスト。形が面白いので、絵を描くように取り組んでいた。

・おやつでチヂミが出た際には「韓国のチヂミだね」と保育者が伝えると、子どもたちも保育者との会話の中で思い出していた。

・保護者にもクラス便りやドキュメンテーションなどで活動内容を共有し、活動の様子を伝えた。



韓国についてのお話会。チマチョゴリ(民族衣装)を身につけ登場。わあ〜と歓声があがりました。子ども達のわかりやすいテーマでお話ししてもらい、楽しく聞き入っていました。



地球儀で知っている国を探したり、タイ語を書いたり、タブレットを使用し実際の言葉（発音）などを聞いてみたりもしました。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・クラスの大好きな仲間が海外へ引っ越ししてしまうことをきっかけに始まった海外への興味。英語を習っている子や外国籍の子がいたり、両親が出張で海外に行っていたり、子どもの興味の幅も自然と広がっていった。
- ・海外に興味を湧いていることを園内で報告すると、担任以外の保育者から「この国のお話なら出来る！」「この国のおやつなら作れるかも。」と意見があがり、国際結婚している保育者から韓国の話をしてもらった流れとなった。子どもの姿から活動が広がったが、その輪の中に保育者も自然と入り、良い流れが出来ていたと思う。大人も子どもも興味深く、楽しい学びの時間となっていった。
- ・これからの時代、子ども達の海外との出会いや学びは増えていく。今後も引き続き、身近な大人の体験談や、地球儀などを用いて子どもの興味を広げていけたらと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	調布市飛田給 2-21-2YAHIRO ビル 1・2F
園名	ちいはぐ・飛田給

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽

<テーマの設定理由>

担任の得意分野である音楽を、歌や楽器が大好きな子どもたちと共に楽しみたいと思った。0歳児からわらべ歌や童謡などにも慣れ親しんでおり、ピアノを置くスペースはないが、普段から卓上ピアノで音楽を楽しんでいる。限られたスペースでも、音に触れ、声と体で表現できる活動を取り入れたいと思った。

2. 活動スケジュール

季節の歌に加え、定期的にリトミックを導入。声だけでなく身体を使って表現したり、ミュージックパッドで音階遊びを楽しむ。また効果音付きキーボードも取り入れ、リズムと共に想像を膨らませ表現ごっこやごっこ遊びを広げていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【既存の物】音階（ド～高いド）を印刷してラミネートしたもの、
ドレミの歌の壁面（ド～高いド）、幼児クラスピアノ（2階フロア）

【買い足した物】ミュージックパッド、効果音付き卓上キーボード

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【4月・音楽大好き！】

2歳児クラスに進級したばかりの様子。クラス6名全員が0歳児クラスから入園していた子どもたち。0歳児クラスの頃からわらべ歌や生活の歌（朝の歌、おやつの歌）、季節の歌、リトミックと音楽に親しんできた。はじめは保育者の歌声から音楽の世界へ。音や声を心地よく感じられる経験を一番大切に関わるようにしてきた。その中で身体を揺らしたり、手足を動かしたりして音に反応して表現することを楽しんだ。それらがリトミックの活動につながった。キーボードを使用してきたことで、楽器への興味も膨らんでいた。保育者の真似をして鍵盤を触ってみたい、楽器遊びでは子どもたちの好きな音楽に合わせて、簡単なフルーツマラカスから取り入れた。



【6月・ドレミ体操&ミュージックパッド導入、幼児合同リトミック】

0歳児、1歳児とたくさんの曲に親しんできた子どもたち。2歳児クラスでは音の強弱やリズム、高低などの違いに気付けるような活動を取り入れ、音楽への関心を深めていきたいとねらいを立てた。まず取り入れたのは『ドレミ体操』。ド→膝、レ→腰、ミ→お腹、ファ→胸、ソ→肩、ラ→頭、シ→ばんざい、高いド→指ばんざいと、身体を使って音階を示したものである。はじめはドレミの歌からド・レ・ミ…の存在（歌詞に出てくるものをそれぞれイラストで示して壁面にし、音の名前を覚えやすくした）を知り、そこからドレミ体操を取り入れた。幼児クラスでは広々とリトミックも楽しむ。





【1月・ハンドベル導入】

続けてきたドレミ体操からの延長線上で、ハンドベルを導入した。音階に親しんできた子どもたち。ハンドベルで遊び音を鳴らすことで、より音の高低に気付けるように環境を作った。初日、まずは保育者が手本として音を鳴らし、音の出し方を教えた上でその後子どもたちも実際に触れてみる時間を作った。「きれいだね〜!」「おとがみんなちがうね」と2歳児なりに様々な感想を伝えてくれた。聴く→分かる→鳴らす→楽しい、という流れを体験し、玩具ではなく楽器でより大切に扱うとお約束、ぶどう組だけの特別な活動として認識出来た様子。「おそといくまえにだんべる(ハンドベル)やりたい!」と子どもたちからリクエストが上がるほどだった。



【2月・ハンドベル演奏】

ハンドベルが慣れてきたところで、友達や保育者と一緒に音を鳴らすこと、音楽に親しむ楽しさを感じ、子どもたちが好きな音楽で自信をもって人前で共有をする体験を考えた。3月におわかれ会があるため、そこで発表を企画。好きな音階を自分たちで選んで担当音階を決定、横に並んで友達と一緒に演奏する心地よさを感じ、発表会ごっこをクラスで楽しんだ。ド〜高いドの上がり下がり演奏だけだが、毎回心を1つにして取り組む姿が見られた。他クラスの保育者に見てもらい褒めてもらったり、自分たちで音を表現することが楽しい!という気持ちが見て分かるくらい、充実感に満ち溢れているようだった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

0歳児クラスから音楽に触れてきてきたが、音に親しみ、心地よさや楽しさを感じながら年齢に応じて表現する経験を重ねることができた。

0歳児では音や歌声に触れ、音楽を聴いて安心したり、揺れたり手足を動かしたりしながら反応すること。1歳児では音やリズムに親しみ、身体を動かしたり声を出したりする経験を。簡単な楽器にも触れ、言葉の発達から歌にも興味湧くようになった。最後に2歳児クラス、音の高低に気付くことで音階が分かり、楽器や歌を通して自分なりに音を表現する楽しさを感じる活動を考えた。音階を理解するにはミュージックパッドやドレミ体操は子どもたちにとってはとても分かりやすいものだったと感じる。

音楽に親しむことは、リトミックという身体表現の土台作りにも繋がった。一つ一つの活動は単発のものではなく、すべての体験・学びに繋げることができたと感じる。3月のおわかれ会はこれからだが、子どもたちの楽しい！と可愛い笑顔が溢れる輝かしい舞台が、担任としても今からとても楽しみである。幼児クラスにいても、これまでの経験を糧に様々なことに挑戦して欲しいと願う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	調布市飛田給 2-21-2YAHIRO ビル 1・2F
園名	ちいはぐ・飛田給

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

クラスの窓辺、外側にプランターが置けるだけのスペースもあり、ここ数年2歳児クラスが植物を育てる経験をしている。今年は恐竜が大好きな児もいたことと、暑さも厳しく乳児クラスはなかなか畑にもいけないことから「ザウルスゴーヤ」を育て、「さらには緑のカーテンになることを試みた。

2. 活動スケジュール

5月、苗植えから毎日の水やりが日課となる。日に日にツルが伸びること、花が咲き小さな実がなった喜び、それがみるみるうちに大きくなる様子を楽しく観察できた。収穫できると嬉しそうに手に取り観察したり、目の前で包丁でカットし断面を確認、その後は野菜スタンプも楽しんだ。園の調理師にたくさん獲れるゴーヤをどこかのタイミングで子ども達に試食をさせてあげられないかと相談、おやつにゴーヤチップスとして提供してもらい、味見することができた。葉がだいぶ枯れて来ると、成っているゴーヤの実もだんだんと緑から黄色に変化。よく熟れたゴーヤからは種が見えてくることも発見し、最後は種の観察。採取した種をよく乾燥させ、各家庭に持ち帰った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【既存の物】・プランター×3 ・土 ・支柱 ・ネット

【買い足したもの】・野菜栽培用の土（3プランター分） ・肥料 ・追肥（液状肥料）
・ザウルスゴーヤの苗×6 ・チューリップの球根

4. 探究活動の実践

【2025年5月21日】ザウルスゴーヤの苗植え



2歳児ぶどう組（在籍6名）で苗植えを行った。ちょうど一人一株で植えることができ、子ども達も自分が植えた苗に愛着が湧いているようだった。成長のためには水が重要なゴーヤ。ここから毎日の水やりのお世話が始まる。

【2025年6月11日】ネット張り



苗のツルが伸び、元々付けていた支柱の高さを超えてきたため、これ以上伸びてきても大丈夫のようにネットを張った。

【2025年6月22日】花が咲き、だいぶグリーンカーテンらしくなる



「みて～！おはながさいてる！」と子ども達も黄色くて可愛らしいお花に興味津々。ツルが毎日勢いよく伸びるため、間引きをしてツルの進路をうまく誘因しながら、グリーンカーテンを作った。

【2025年6月26日】花の根元に小さな実が！



花の観察をしていると、おやおや？花の根元になにやら小さな実が付いている！？小さくてもゴーヤのイボイボがよく分かり、ぶどう組の子どもたちからは「ベイビーゴーヤ」と呼ばれていた。

【2025年7月3日】一気に生長、手のひらサイズに



実がなったと思えば一気に大きくなり、生長が著しかった。そんなゴーヤの様子に、子ども達もにっこりだった。

【2025年7月8日】大人の手の縦のサイズに、そろそろ収穫！？



あっという間にずっしり収穫サイズのゴーヤになった（ザウルスゴーヤという品種はこれくらいのサイズ感）。グリーンカーテンも立派になり、太い支柱やネットが重みを感じてしなったり、垂れ下がるほどだった。

【2025年7月14日】みんなで収穫体験



「今日はゴーヤの収穫をしよう！」の言葉掛けにわくわくした表情の子どもたち！たくさんの実の中から、一番大きな実を探して「これにする！」と各々自分のお気に入りを探していた。収穫したゴーヤは、調理さんに相談して、おやつでゴーヤチップスで出してもらった。元々苦みが少ない品種だが、子どもたちが食べやすいように味付けも工夫してもらい、みんなで味見。やっぱり苦い…という児もいれば、おいしいおいしい！と食べるのが止まらない児もいて、反応はそれぞれだった。

【2025年7月15日】ゴーヤを使った野菜スタンプに挑戦



収穫したゴーヤに、園の畑で獲れた他の夏野菜を加え野菜スタンプに挑戦。目の前で調理さんに野菜をカットしてもらい、興味津々にそれを見つめる子どもたち。ゴーヤの断面を観察すると「たねがはいってるね」「しろいふわふわはなあに？」と色々な発見をしていた。絵の具を付けて、スタンプぺったん！目の前に広がる不思議な形に笑顔いっぱいの子もたちだった。



【2025年7月24日】熟した実の中から出てきたのは…？



「ゴーヤ、なんできいろいの？」子どもたちも緑のゴーヤがだんだん黄色くなっていくのを不思議そうに観察していたある日、黄色いゴーヤが縦に割れてその中から赤い種を発見。スタンプのときは白かった種が赤く変わっていて、子どもたちもさらに驚きの表情。調べたところ、種は乾燥させればまた来年の栽培に繋げていけるとのことで、乾燥させた種を各家庭に子どもたちが喜んで持ち帰っていった。



グリーンカーテン、夏前からなんと10月まで楽しめた。夏場はずっとぶどう組の窓を涼しく飾ってくれ、午後の西日対策にもなった。ゴーヤの栽培の跡地は、土を入れ替えて今度は春に向けてチューリップの球根栽培に取り組んでいる。



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

・毎日の水やりを通して「おおきくなあれ！」とゴーヤの生長を応援し、ツルが伸びていったり実が実ってだんだん大きくなっていく変化などに気付き、簡単な言葉や身振りで子どもたちなりに自分の発見を表現しようとしてくれていた。

・保育者と一緒に苗や実に触れ、毎日繰り返し関わっていくことで植物が育つ過程に親しみを持つことができていた。単に「育てる」だけでなく、2歳児なりの「関わる・感じる」力が多く見受けられた。「おみずあげなきゃ」「ゴーヤさんのどかわいちゃうから」と主体的に植物・いのちと関わろうとする姿があった。

・実の変化を観察し、大きくなって収穫の体験から食育活動（ゴーヤチップス/夏野菜スタンプ）にも結び付ける関わりができてよかった。【育てる→食べる→あそぶ】まで繋げた。育てたものが食べ物や遊びにつながることを知り、食材への興味・関心を深めることができた。一方で苦みや匂いに戸惑う児もいたため、無理に勧めず、見る・触れるなどの個々の関わりの方を大切にした。

・夏のゴーヤ栽培から、秋冬はチューリップの球根栽培に繋げることができ、子どもたちに継続した栽培体験の機会を設けた。季節の移り変わりから育つものの違い、“いのちを育てる（関わる・感じる）”経験の積み重ねを保育の中で展開。夏に育てたゴーヤの経験を元に、植物を育てることへの親しみや期待感を持ち、チューリップの球根に触れる子どもたちの姿が見られた。「新しい活動」ではなくて、ゴーヤの経験が土台になっている。「おみずあげる」ことも慣れており、楽しい日課となっている。

・夏の暑い間は、グリーンカーテンとして2歳児クラスの西日除けとしても活躍してくれたゴーヤ。日差しを和らげて室温上昇を防いでくれ、エアコン使用を抑えられたことが省エネ、CO2削減にも繋がり、SDGsとしての取り組みにも繋がった。2歳児としてSDGsの理解はなかなか難しいが、難しい言葉を教える必要はなくて「ゴーヤで日陰ができたね」「お部屋ちょっと涼しいね」「みんなが育てたね」とその体験自体がSDGsそのものになったと考えている。

・実が終わり、だけではなくて種になってまた育つ、というところまで知ることができ2歳児なりにいのちの繋がりや、次の植物の生長へとつながる循環を見て感じ、自然への親しみと大切にする気持ちも育めたと感じる。